

# 同仁会医療介護活動委員会キックオフ集会

## 地域も職員も健康で元気に

6月21日(木)18時から、みみはらホールで医療介護活動委員会キックオフ集会が開催されました。友の会からの参加もあり、95人が集まりました。集会は、総

合病院の森事務長の、無差別平等の医療にこだわり続けてきたことを再認識し、これからの活動につなげようという呼びかけから始まりました。



講演を熱心に聴く参加者

### 健康を決定する要因は？

前世界医師会会長のM・マーモット氏の著作『健康と格差』を翻訳された中村先生(大阪社会医学研究所所長)は、SDH(健康の社会的決定要因)のテーマで講演されました。所得階層と要介護高

齢者割合の相関や夫婦関係の満足度とうつ発症の関係などの統計データを示しながら、病気になる原因を「なぜ、なぜ？」と繰り返して、生活習慣や労働環境、経済力、学歴などの社会的背景をどう消去することが健康格差の解消になるかと話されました。提案として紹介された「誰でもつな



中村賢治医師



大矢亮部長

### HPHで同仁会と堺を元気に

「SDHがれるシート」や「SDHカンファレンス」など、私たちへのたくさんのヒントがありました。

HPH委員会委員長の大矢部長は、病気の悪化を繰り返す患者さんと向き合うなかで、「教育」が重要だと気づき、HPHの考えにたどりついた経験を話されました。「同仁会と堺を元気にしたい」と、そのために「社会的背景に着目した情報を集めて発信し、企業や学校と協同してHPHを広げよう」と力強く呼びかけられました。

### SDHの視点で患者さんの理解を深める

訪問看護ステーションの宮川師長は、SDHの視点で患者さんと関わることで、患者さんの言葉一つでもとらえ方が変わり、より深く理解することができて具体的な援助につながるという経験を話されました。

同仁会とつながる友の会のみならず地域の人権を尊重する意味を持つ↓壊れている社会的問題が見えてくる。

信頼も忘れず！

### 参加者の感想

- ・経済的要素を自己責任で割り切る社会にしてはいけない。
- ・できることを一つずつ実践することが大事。
- ・社会的に考えられる価値観を持つようになる良い講演でした。「見えないから聞く」を大事にします。
- ・まず、病院内や法人内の思いをひとつに広げていくことが大切だと感じました。
- ・SDHの視点で患者さんの背景を知る↓人権を尊重する意味を持つ↓壊れている社会的問題が見えてくる。

## 未然に防ごう

## 熱中症



### 今年も熱中症調査にとりくみました

夏本番を迎え、熱中症の発症がニュースなどで報じられていますが、今年で16年目を迎える民医連の熱中症調査がとりくまれました。



熱中症調査は実態を把握するだけでなく、訪問を通じて熱中症を未然に防ぐ意味も持っています。大阪民医連、同仁会では調査結果をもとに大阪府や堺市との懇談も予定しています。行政を巻き込んだ地域全体のとりくみとして広がっていくのが目標です。

今年7月9日～8月5日の期間で行なわれました。

熱中症調査へのご協力ありがとうございました。

### シリーズ 現場からの視点

その38



事前学習会の様子

## 核兵器廃絶が私たちの願い

### OCAN(核兵器廃絶鳳キャンペーン)



お話しに聞き入る参加者

を話していただきました。当時、看護学生だったこともあって怪我人の治療にあたったというお話は、聞いているだけで胸が痛くなる内容でした。

5月には耳原鳳クリニック小児科の真鍋先生にお願ひして「核兵器廃絶のこれから」というテーマでお話をしていたいただきました。

今後の予定では、7月12日(木)に大阪原水協副理事長の北野雅博さんに来ていただき、原水爆禁止世界大会の事前学習会を行います。

い、8月30日(木)には報告会を行う予定です。

6月の川崎哲さんの講演会で、核兵器禁止条約の認知が進んでいないことが課題だと話されていました。OCANの取り組みで少しでも条約が知られるように、これまでの活動とあわせてとりくんでいきたいと思ひます。

(春川 智弘)